

砂名の ベトナムに乾杯

第26回 世界各国からこんにちは、日本酒がつなぐご縁

角打ち【日本酒で乾杯!】では3年目頃から、日本人以外の外国人のお客様もご来店いただくようになり、5年目あたりからは東アジア、ASEAN、欧米、南米と有に30カ国を超えるようになった。カナダ、フィリピン、カンボジアからは在住の日本人の方たちなのだが、「ホーチミン」「日本酒」で検索して来られる日本人も少なからずいらっしやる。

一人飲みされるのは日本人だけで、たいがいは国籍が入り混じったグループ客である。ベトナム人が混ざっていることも多い。リピート率が高く、今回は別の友達を連れて来られる。夫はベトナムに赴任、妻はハンガリーから、娘たちはベトナムや中国にいるというご一家や、夫が韓国人、妻がアメリカ人、岡山大学で知り合われ共通言語が日本語というグローバルなご家族もいらっしやる。シンガポールからのお客様は、とにかくベトナムでの日本酒の安さに感動される。

香港にいらっしやる3人の酒サムのうち、お二人にご来店いただいた。一人はカナダ人のエリオットさん。もうお一人は香港島で日本酒BAR【Sake Beya Masu 酒部屋斗】を運営していらっしやるLouis Hoさん。翌年、彼の店を訪ね、店内を丁寧に案内していただき、夜更けまで一緒にお酒を飲んだ。ホーチミン在住の酒ソムリエ、アメリカ人Jesseさんとも交流があるが、まさに日本酒がつなぐ「酒の輪」である。



店内の壁一面に貼られたメニューの貼紙。「漢字」は欧米やアジアなど諸外国の人たちにとってはクールなのだ。

ドイツ人のお客様に「なぜホーチミンで店をオープンしたのか」尋ねられ、設立には中小企業庁の助成金の一部を活用したと伝えると。「え? 日本の国はバーに投資するの?」と驚かれ、日本酒が「国酒」として位置付けられ、政府は伝統文化に金を出すのだと付け加えると。傍らにいたイタリア人の友人に、「おい、俺たちバーじゃなく、文化センターで飲んでんだぜ! 日本ってスゴいなw」。この笑いのツボが良く分からないのだが、ドイツもメルケル首相はコロナ禍で、文化・芸術に対して手厚く補償金を出したと聞く。

昨年いらしたメキシコ人の男性のお客様は「口噛み酒」について話しておられた。世界に誇る日本文化「アニメ」(「君の名は」)のおかげである。

毎回しっかり風味をチェックし、「大吟醸」と「吟醸」の違いについてなど説明を求められる中国系アメリカ人女性も、友達

グループでちょくちょくご来店くださる。日本酒に興味を持つ方も増加傾向にあり、2019年6月から店一面に貼り出しているメニューの、銘柄名や蔵元名、都道府県名に英語表記を追加した。風味の英語表記も明記し、「吟醸系」「バランスの良い純米酒系」「旨み・甘味の濃い系」「ドライ(辛口)系」とカテゴライズした。一方で「漢字」の銘柄名の張り紙は圧巻のようで、「漢字」に見惚れる欧米人の方も多く、店内は一種ギャラリーのよう。日本にいたことがあるというベトナム人の方も、「読めるよ!」と、メニューを指さして楽しんでおられた。

さて。「日本酒」に興味を持たれた世界各国の方たちに、私たち日本人は、「日本酒が(ワインと違って)世界に類まれな複雑な製法であること」「風味の違い」「料理との相性(ペアリング)」など、ちゃんと説明できるだろうか。今、当店のスタッフたちのためにも、日本酒に関する用語の英語表記をまとめているところだ。



月森砂名(つきもりさな)

奈良県出身。同志社大学卒業。2015年、ベトナム初の角打ち【日本酒で乾杯!】に続き、2020年、Pham Viet Chanhにて日本酒専門の「角打ちのある酒屋」【蔵 KURA】をオープン。経営に携わる。東京で舞台撮影や制作の仕事をする傍ら、作家活動を行う。2009年よりNPO法人Layer Boxにて、日本の伝統文化について、大学、高校、専門学校とともに、PV、3D、CGなどのコンテンツ制作および世界発信を行う。